



2026 日韓建築史共同セミナー

地域から東アジア建築史を考える 2

歴史は主流の世界観により構成される。
建築史の研究においても首都の建築の中心性は勿論、
今日の研究においても
資料と研究者の両側面に於て偏向した歴史が記述されている。
繊細な目をもって努力しなければ
首都以外の地域の建築史は薄れてしまうだろう。
韓国と日本両国の建築歴史学者が大邱圏の建築の歴史に目を向け
地域からの建築史研究を進めたいと思う。

日時 / 2026年2月22日(日)09:30-17:30

場所 / 大邱広域市 都心キャンパス 2号館(中区 北城路107)+ ZOOM

言語 / 英語 (部分的に韓国語、日本語)

1 古代 - 建築の痕跡と実体

許由真 (ホ・ユジン、釜山大学校)
釜山龍岫里出土の家形土器の特殊性に関する試論

樺山菜々 (東京大学)
中国地方におけるたたら吹製鉄と高殿について

3 近世 - 近世期の地域の生活

李佶勳 (イ・ギルフン、ソウル市立大学校)
韓国近世村落にみる空間的構成原理

前川歩 (畿央大学)
近世宿場町における地割再編と集落景観の変容

2 中世 - 中央と地方の連結

申雄州 (シン・ウンジュ、朝鮮大学校)
朝鮮時代慶尚監營の建築配置と中央権力の具現

中村駿介 (石川県金沢城調査研究所)
住居の兵農分離

4 近代 - 東西洋建築の交渉

姜始志 (カン・ヨンジ、韓国芸術総合学校)
20世紀の大邱、西洋宣教師たちのカトリック教会建築

山田由香里 (長崎総合科学大学)
1850~1910年代の長崎カトリック教会堂建築史

